

自民は河野氏、立民は蓮舫氏ら

応援弁士 全国奔走

民主党は知名度を重視した人選で党勢拡大に向けてこ入れした。

自民の河野氏のもとには総裁選の1回目の投票で得た86票の議員票より多い100人以上の自民候補から応援の要望が寄せられた。

総裁選で河野氏を支援し「小石河連合」と呼ばれた石破茂元幹事長や小泉進次郎前環境相も全国を行脚した。総裁選で首相に敗れた高市早苗政調会長や野田聖子少子化相も各地に赴いた。

公明党は連立政権を組む自民に応援弁士の協力を仰いだ。小選挙区で候補をたてている9選挙区と同じ都道府県内を地盤とする自民候補が街頭演説で弁士を務めるケースもあった。

衆院選で各党は有権者の関心を集める応援弁士を積極的に投入した。自民党は9月の総裁選で岸田文雄首相（党総裁）と戦った河野太郎広報本部長らにも全国を回らせ、学党体制を敷いた。立憲

した幹部やテレビ出演の経歴などがある人物を中心に起用した。福山哲郎幹事長や蓮舫代表代行は全国の激戦区を回った。

党外からは初の女性連合会長として注目される芳野友子氏が立民や国民民主党の候補らの応援演説に入った。両党は労働組合の支持が基盤になるため、応援弁士として声がかかることが多かった。

日本維新の会は大阪府知事を務める吉村洋文副代表らが応援弁士の中心で、主に週末を使って各地を巡った。平日は公務優先のため活動が制限されたり、大阪周辺にとどまったりする必要があったという。

共産党やれいわ新選組、社民党、「NHKと裁判してる党弁護士法72条違反で」は党首を中心に票の掘り起こしをはかった。